

※3月末までに実施したプログラムでは、生徒の感想は旧学年で表記しています。

## ● トゥワイスアワード『自分史部門』

☆グランプリ	1年桜組	太田 千満さん
☆優秀賞	1年竹組	杉山 遥菜さん
	1年梅組	牧井 舞子さん
☆奨励賞	1年菊組	谷口 花音さん



太田千満さん。グランプリは、出場者全員の前で再度発表。発表前のインタビュー。

中学2年生は昨年度「自分史～過去編～」に取り組みました。

過去を思い出し、現在の自分をつくっている大切なものを再認識する、という取り組みです。この取り組みを通じ、自分が大切にしてきたものや誇れるものを再認識し、親切にしてもらった、あるいは心が救われた経験を思い出し、友達や家族のありがたみを改めて実感した人がたくさんいました。

また、一人で内省し静かに自分を見つめ直すだけでなく、それを人に伝えるということもこの取り組みの目標の一つでした。グループで思い出の写真を見せ合いながら歓談するところから始め、冬休みに仕上げた作品(写真付きの作文)をグループで読みあった後、クラスで発表しました。クラス代表は学年集会でも発表しました。



閉会式後舞台上

クラス代表の作品を「トゥワイスアワード」に応募したところ、全国804名の中から太田さん、杉山さん、牧井さんの3名が全国大会に選抜され(自分史部門では他校から2名で、計5名が選抜)、谷口さんは奨励賞を受賞しました。以下、3月11日に行われた全国大会の様子をお伝えします。

トゥワイスアワードには、「自分史」の他に、「企業インターン(取り組み総数968チーム)」、「グローバルリサーチ(293チーム)」、「人間ドキュメンタリー(126チーム)」などの部門があり、それぞれの選抜者・チームが全国大会に参加しました。学校によって取り組んだ部門は違いましたが、どれもプレゼンテーション、つまり「自分たちが考えたことを人にどのように伝えるか」を大きな目標



の一つとしたものでした。開会式では、出場者は、この大会の一日で「言いたいことを伝えきる」「話をよく聞き学ぶ」「楽しむ」ことを心がけるよう呼びかけられました。本校の代表3名はそれぞれの持ち味を生かし、立派に発表しました。グランプリを獲得した太田さんの自分史は、小学校三年生の時に選抜大会で選ばれて、スペインで二週間サッカーを学んだ経験が題材でした。選抜大会にどうしても参加したくて必死に頼んだ結果、渋りながらも参加させてくれた保護者の気持ちに思いをさせ、スペインでの貴重な体験と両親への感謝の気持ちが今の自分を支えてくれている、と伝えました。そして最後は「一度口にしたことは絶対に実現してみせる」と、夢の実現への決意で締めくくりました。文章も伝え方もとても上手でした。



出場者全員で写真撮影

俳優で演出家の、ある審査員からは「あなたの気持ちが心にずんずん響いてきました。」というコメントをいただき、まさに「伝えきった」素晴らしい発表でした。

太田さんの夢は世界で活躍するサッカー選手になることだそうです。人に伝えることで、この夢に向かって努力する決意を新たにされた太田さんに対して、別の審査員から「イチローや本田圭佑は、卒業文集に将来の夢として書いたことを実現しました。同じように、太田さんも今ここで発表した夢をきつとかなえられると思います。がんばってください。」というエールが送られました。

今年度、中学2年生は自分史～未来編～に取り組みます。過去編で自分をじっくり見つめた後、将来どんな道に進んでいきたいか、そして実現に向けて何をしたらよいかを考え実行する機会にしたいと思います。

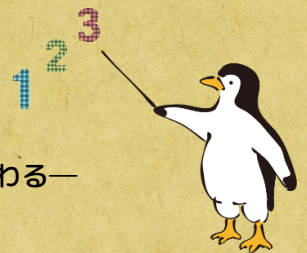


## ● 数学の魅力#7 —女子中高生のために—

3月11日(日)の午後、十文字から19名の生徒が参加して、駒場の東京大学数理科学研究科棟大講義室に講演を聞きに行きました。

テーマは以下の3つでした。

- ①数学を通してみる世界—原子から宇宙まで—
- ②数学と音楽の織りなす世界
- ③いろいろな次元の球—次元が変わると何かが変わる—



### 【参加した生徒の感想】

- ・小学生の時に「きれいな形」について話したことを思い出した。ハチの巣とか飛行機を下から見たときのこととか。今日の話を聞いて周期的に続いているもの(シリコンの原子)、線対称(楽譜)などつながるものがあった。[1年生]
- ・私は数学と物理、音楽の関係や次元ごとに変わる球のことについて新しい発見や興味をもちました。中島さち子先生の話で印象に残ったことばは「数学と音楽はグローバル言語である。」です。もっと視野を広げれば新しい発見や出会いがあるかもしれないと思いました。[1年生]
- ・休憩時間に私と同じ年くらいの女の子が、難しい数式を必死に解いていたり、講師の先生に質問をしていたりしていて、「この差で将来がずいぶん変わるのだろうな。」と思いました。私もこれからは何事にも積極的に頑張ろうと思いました。音が比で表せることや、比によってきれいに聞こえる和音が決まることなど初めて聞くことが多かったです。[2年生]
- ・数学は音楽や日常生活のいろいろなところに使われていて、世界を支配していてすごいなと感銘しました。[2年生]
- ・数学と音楽の密接な関係の一端を垣間見ることができました。中学の音楽の授業で「ド、ミ、ソは美しい」と教わったのに、中世の音楽にドミソの組み合わせをあまりみない数学的理由が分かって感動しました。[4年生]
- ・人間が美しいと感じるものにはある規則性があり、自分でそれを発見できたら楽しいだろうなと思いました。今回の講演を受けて、数学とはただ公式を覚えてその公式に当てはめて解くのではなく、いつもと違う視点から見つめ直して新しい発見をすることに楽しさを感じられるものだなと思いました。[4年生]



## ● 東北大学 科学者の卵養成講座

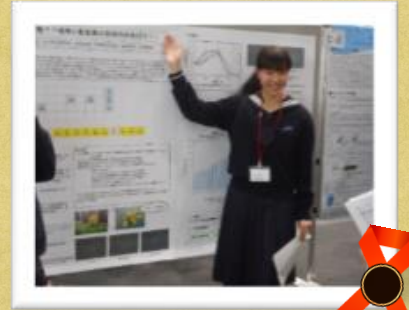


東北大学が行っている飛翔型「科学者の卵養成講座」の発表会が3月10日(土)に仙台市の青葉山キャンパスで行われました。

本校からは6年生の後藤光雲さんが2年間にわたって大学で研究を続けました。4年生では研究発展コースに所属して「海産動物ウニやヒトデを用いて受精の仕組みを探ろう」の発表を行い、東北大学総長から最優秀賞をいただきました。

そして5年生では研究発展コースの中で特に優秀な人が引き続き研究できる研究重点コースで研究を続けました。

「毒？栄養？植物と重金属の関係性をあばけ！！」というタイトルで発表を行い、総長から研究発表賞第2位と研究奨励賞をいただきました。2年間にわたる研究成果はサイエンスパークで見ることができます。



## ● 経済同友会主催 第12回教育フォーラム



学年末の3月17日(土)に経済同友会主催の第12回「教育フォーラム」が丸の内日本工業倶楽部で開かれました。本校からは中学1年生5名、2年生5名の合計10名が参加し、100名の中学生とともに17のグループに分かれてディスカッションしました。テーマは「～勉強するのは何のため？働くってどういうこと？～」。

### 【参加した生徒の感想】

- ・基調講演で、会社が欲しがる人材は“好奇心を持ってみる眼”、“多様な価値観を受け入れる柔軟性”、“変化を感じ取る感性”、“形にするデザイン力”、“チャレンジする意欲”だということでした。これからこれらを身につけていかなければ、と思った。グループディスカッションでは熱い議論が続き家に帰ってからも胸が高鳴った。最初は何も言えないほど緊張していたが、こんなにも充実した時間になり素晴らしい企画だったと思った。[1年生]
- ・グループディスカッションでは他校の人たちの話を聞き、「こういう考え方やことばで伝えることができるのか」と自分の自信になりました。[1年生]
- ・今回フォーラムに参加して最も印象に残っているのは、周りの同年代の人たちのレベルです。グループディスカッションでは自らのアピール力に長けていて考えていることを瞬時にことばで表現できる人たちが多かったです。彼らに追いつけるように努力していこうと思います。[2年生]
- ・多様な人材が混ざり合うこと、コミュニケーション力が大事だということ学びました。コミュニケーション力を伸ばすためには、勉強をしないと身につけられないのでまじめに勉強して常識的な知識を身につけることが大事だと思いました。[2年生]
- ・今回、教育フォーラムに参加して、基調講演では「自分の強みを磨き続ける」ということばに心が動きました。「好き」「興味」をきっかけに強みは見つかるタイミングで今回をいい機会として見つけようと決めました。グループディスカッションでは、「学校も性別も違う初対面の人と話をするの?!」と少し驚きましたが、私が意見を言うと頷いてくれたり、思いもよらなかった意見を言ってくれたりいろいろな人たちの意見を聞くことができました。私は自分の好きなこと、強みを生かせる職について世の中の一員として立派な大人になりたいと思いました。[2年生]

## ● プログラミング～ゲームを作ろう～



春休みに入った3月27日(火)の午後、本校マルチメディアルームにて、“プログラミング～ゲームを作ろう～”の講習を行いました。講師は十文字学園女子大学人間生活学部生活情報学科の小野裕次郎先生でした。MITが開発したScratchを使って実際にゲームを作ってみました。1年生から5年生までの23名が参加しました。



## 【参加した生徒の感想】

- ・ゲームを作る時、「動き」や「見た目」などの部分からキーワードを選び、命令をして作るということが分かりました。「～をした時～をする」というようなことをつなげていけばゲームや動画を作ることができ、とても楽しかったです。[1年生]
- ・すごく楽しくてあっという間に90分が過ぎていった。プログラミングは難しいことではなく、意外と簡単にできるものだと分かった。[1年生]
- ・命令の種類が多かったので意外と大変でしたが、何がどうなるのかワクワクした気持ちで講座を受けることができた。[1年生]
- ・普段はゲームで遊ぶ側しかやったことがなかったが、今回初めて作る側という視点で楽しむことができた。[4年生]
- ・以前お茶の水女子大学で実際にロボットを動かしましたが、パソコン内でのソフトを動かすのは初めてでした。思ったより簡単に動かすことができました。[4年生]
- ・ゲームをやるとき、「どんなプログラムかな？」と考えるのもなんだか楽しそうな気がした。[4年生]
- ・一度プログラミングをやってみたくて思っていました。実際に体験したところ思っていたより難しくなく、工夫次第でいろいろなゲームが作れて楽しい世界だと思った。[5年生]



## ● 春休み看護師体験

### 【参加した生徒の感想】

- ・病院とは今までただ「病気を治すところ」だと思っていましたが、看護師さんからいろいろ説明を聞いたり実習をしたりしていくうちに「人の心に寄り添っていくところ」に変わっていきました。ただ足を洗っているだけなのに「ありがとう」と言われてとてもうれしくなりました。[5年生]
- ・足浴をしたときに看護師さんから「足浴は足の状態を見たりやコミュニケーションを取ることができる」と教えていただきました。些細なことでもしっかり気づき、常に笑顔でいられる看護師さんはすごいなと思いました。[5年生]
- ・外来にいる看護師さんは週によって担当する外来の場所が変わると聞き、現場での経験が多くなければ全てのことをこなすのは大変だと思いました。[4年生]

## ● 内閣府による講演会

4月25日(水) 5・6時限を使って、下記のように4・5年生を対象に進路講演会を実施いたしました。

### 第1部講師① 天野 妙さん

- 働き方改革&  
女性活躍推進コンサルタント
- 日本大学理工学部建築学科卒

### 第1部講師② 鎌田 久美子さん

- 昭和シェル石油 中央研究所  
第一研究チーム主任
- 自動車用潤滑油の研究開発に従事
- 2017年JWEF奨励賞受賞
- 東京大学大学院工学系研究科  
化学システム工学専攻修士課程修了

### 第2部講師 橋 ジュンさん

- BONDプロジェクト代表

### ○第1部 (13:05~13:50) 「リケジョの未来」

理系に進まれた2名の方からのお話でした。

4年生は、秋の文理選択を考えるにあたって、今まで「文系」というイメージしかなかった生徒にとっても、「理系」を1つの選択肢として考えるきっかけになったようでした。また、すでに文理選択をした5年生の理系に進んだ生徒にとっては、自分の未来を思い描くにあたって、良い参考になったようでした。



内閣府 男女共同参画局撮影



## 生徒からの質問Time!



生徒Q：天野さんの考える男女平等とはどういう社会ですか。

講師A：性的役割分担意識があるかもしれませんが、  
もしかしたら、政治の中での男女比が一つの目安かもしれません。

生徒Q：天野さんは、どのようにプライベートと仕事を意識して分けていますか。

講師A：あえて仕事とプライベートは分けていません。すべてが私の大切な活動です。

生徒Q：鎌田さんが考える日本の会社とアメリカの会社の違いは何ですか。

講師A：アメリカの方がずっと幅広い人種の中での仕事となります。そのため様々な考えの方  
がいるので、物事ははっきりと伝えなければいけないと強く感じました。

生徒Q：鎌田さんの勉強や仕事に対する原動力は何でしたか。

講師A：勉強については、理系に進もうと決めてからはやる気が出てきました。理系に進む人が  
少なくてちやほやされたのも嬉しかったです。今は、勉強の目的がはっきりしていて、  
どの勉強も楽しいです。また、みんなで力を合わせて仕事をして得る達成感、  
お金を得ること以上に価値あることだと感じています。

## ○第2部 (13:55~14:40) 「JKビジネス~そこにある危険~」

JKビジネスの被害にあい、苦しむ少女の話しを聞き、相談にのる団体の存在を知り、身近なところ  
にも危険は潜んでいることを感じたようです。

### 【第1部・生徒の感想】

- ・社会で賢く生きる女性になりたいと思いました。
- ・私は理系を希望しないと決めていたが、理系に進む魅力も理解できたので、文理選択までの1年間、両方を視野に入れて勉強していきたいです。
- ・女性リーダーとして活躍している二方に尊敬しました。私も自分の意見をはっきり言える人間になりたいです。
- ・外国と日本の違いを知り、様々な国の価値観や違いを理解しなければ今後のグローバル化についていけないと感じました。



内閣府 男女共同参画局撮影

### 【第2部・生徒の感想】

- ・JKビジネスの問題はとても深刻だと感じました。自分には関係ない話だと思わず、どうしたら防げるのかを考えたいと思います。
- ・困ったときに相談相手がいることを知り、安心した。

ドキドキ



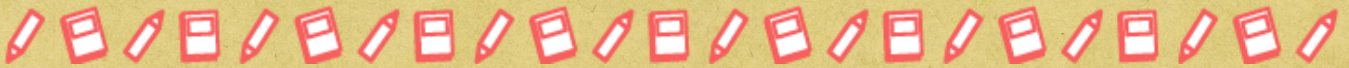


## ● 合格体験を聴く会



4月28日(土)に、この春卒業した22名の先輩を迎えて、合格体験を聴く会が開催されました。教科ごとの勉強方法やおすすめの参考書といった勉強に関することはもちろん、放課後や長期休み期間中の過ごし方、受験期のスランプに陥ったときの乗り越え方など、自分の経験をもとにアドバイスしていただきました。

具体的には、「高1、高2の時期が大切であり、この時期に勉強する習慣を身につけた方が良い。」「分かったつもりで終わらせるのではなく、できる状態まで引き上げ、理解を深めておく。」「リスニングは基礎英語を活用した。」「悩んだときこそ、信頼できる先生に質問や相談した。』といったことを話していました。



## ● 大学進学相談会

6月20日(水)の午後、26大学に来ていただき、生徒たちが関心のある大学のブースに行って説明を受けたり質問をしたりするという形式で相談会を行いました。

参加して下さった大学は、国立大学のお茶の水女子大学・埼玉大学・千葉大学・東京学芸大学、私立大学の青山学院大学・学習院大学・北里大学・國學院大学・駒澤大学・十文字学園女子大学・上智大学・昭和女子大学・成蹊大学・専修大学・中央大学・東京女子大学・東京農業大学・東京理科大学・東洋大学・日本女子大学・日本大学・法政大学・明治大学・明治学院大学・立教大学・早稲田大学でした。

どのブースも途切れることなく、4時間にわたって生徒が訪れていました。今年の特徴としては、例年より多くの生徒が国立大学のブースを訪れていたのと、保護者の方が熱心に話を聞いていたことでした。混雑するオープンキャンパスを避けて、本校だけの説明会を上手に利用している様子が見えました。また、説明に来て下さった方は、「十文字生はよく調べて質問する。」と褒めていました。

大人気の大学はどこ？



保護者の方も熱心に質問



十文字学園女子大学も大混雑





## ● 夢☆未来プロジェクト

中学では、6月27日(水)に、車いすバスケットボールパラリンピアンの方の神保康広さんをお迎えしました。バイク事故で脊髄を損傷して足が動かなくなり、失意と絶望の中で引きこもり生活を送ったこと、熱心な友人の勧めで車いすバスケットボールを始めたこと、日本代表としてパラリンピックに4度出場し、アメリカ留学も経験、現在は車いすバスケットボール普及のために、全国だけでなく海外も飛びまわっていることをお話してくれました。

また、講演の後は、3年生が競技用車いすに乗ってミニゲームを楽しみ、1・2年生が大きな声援を送りました。最後は教員チームも登場し、大変盛り上がりました。



### 【参加した生徒の感想】

- ・神保さんは、障害のない私たちよりもずっと生き生きと、いろいろなことにチャレンジしていました。また、知ることの大切さや、失敗を恐れずにチャレンジすることの大切さを教えてくれました。今回の講演で、障害のある人がもっと住みやすい世界になればよいと思ったのと同時に、2020年のパラリンピックが楽しみになりました。
- ・神保さんは、友達がいたからこそ挫折から立ち直ることができたし、諦めず前に進むことができました。そんな友達がほしいと思うとともに、自分もそういう人になりたいと感じました。そして何より、車いすバスケの楽しさを教わりました。友達や先生がシュートを決めた瞬間、嬉しさや楽しさ、興奮などの感情が一気に駆け巡りました。



## ● 十文字女子大附属幼稚園1日実習

7月11日(水)に4年生23名、5年生1名、6年生2名の合計26名が新座の十文字女子大附属幼稚園で幼稚園の先生としての実習をしました。当日は気温が34度まで上がり、園児たちの活動の中心はプールでの遊びでした。園児たちと遊びながらも幼稚園の先生の仕事をしっかりと学び、自分の将来の仕事として考え始めた生徒たちもいました。幼稚園での実習が終わったあとは大学に移動して、朝からの実習を思い出しながら幼児教育学科の山田陽子先生のお話を伺いました。



今年の参加者は26名です  
実習前なので  
少し緊張しています



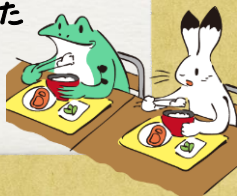
子どもたちに水をかけられました  
でも、後からタオルで  
拭いてくれました







一緒に給食を食べました  
とてもお行儀のいい  
子どもたちでした



園児がバスで帰るのをお見送り  
子どもも生徒も  
充実した一日でした



### 【参加した生徒の感想】

- ・始まる前は緊張していて、どんな話をすればいいのか、不安しかなかったけれど、子どもたちの方からたくさん話しかけてくれて楽しく過ごすことができました。
- ・ずっと遊んでいるだけだと思っていたけれど、先生の動きを見ていると常に周囲に気を配っていて忙しそうでした。今日、1日実習しただけで疲れてしまったけれど、毎日行っている先生はすごいと思いました。
- ・片付けや整列の動きが素早くて驚きました。また、先生の話を聞くときも直ぐに静かになって素晴らしかったです。幼稚園の先生は遊ぶことだけが仕事ではないということがよく分かりました。
- ・園児が笑顔だと自分も笑顔になれました。
- ・今まで幼稚園の先生のイメージは「楽しそう」でしたが、今回実際に実習を行ってみて大変なことも多いと感じました。それでも、私は幼稚園の先生になりたいという気持ちを改めて感じることができました。
- ・幼稚園の子どもたちはまだ短い人生の中でも礼儀や決まり事をすでに習って守っていることに感動しました。今の私たちの基本となっていることは小さな頃に身につくことを知りました。
- ・園児たちに「先生！」と呼んでもらったことが嬉しかったです。
- ・最初、子どもたちとどうやって仲良くすればいいのか、怖がられてしまったらどうしようか等不安がたくさんありました。朝、人見知りしていた子どもも午後には心を開いてくれ、小さい子は面白いと感じました。
- ・子どもと触れ合ってみて、想像していたよりずっと大変でした。しかし、子どもたちはとても素直でとてもやりがいのある仕事だと思いました。
- ・1日だけでも疲れてしまった。毎日やると考えるともっと体力をつける必要があることが分かった。
- ・子どもは一人一人個性が違うので、その子にあった関わり方を考えて触れ合わなければいけないことが分かり、大変さも感じた。
- ・先生の立場で実習したが、いいことと悪いことをきちんと教えられたか少し心配だが、しっかり対応できたと思う。
- ・「輪に入れない子ども」に対して先生たちがどのように対応するのか、子ども同士のやりとりは？などをしっかりと観察し、いろいろなことを発見できました。
- ・プールの時間に水を掛け合って私が濡れたときに、子どもが自分のタオルで私のことを拭いてくれました。子どもって本当に優しいと思いました。





## ● 数学体験館見学

7月11日(水)に中学1年生と2年生の希望者が東京理科大学にある数学体験館に行きました。そこにはサイクロイド曲線を使った滑り台、二項分布を体感できる機械、楕円曲線を使ったビリヤードなどがあり、数学の授業で習ったことがなくても体験しながら楽しむことができます。

生徒たちには、ふだん勉強している数学には面白い性質があり、これから学ぶ数学にも不思議なことがいっぱいある、と感じてもらえたと思います。

### 秋山仁の数学体験館へようこそ

名曲の楽譜を見せられても普通の人には喜びも感動もありません。御馳走のレシピを手にしても、それがどんな美味しい料理に変身するのか想像が付きません。それと同じで、数学の美しい理論も数式だけでは無味乾燥に感じる人が沢山います。数学の理論には寸分違わぬ真実の美があります。その美は多数決の原理によって覆されることもなく、時代を超えて変わることもありません。さらに、その美は巨額の富を以ってしても占有できません。しかし、望む者には誰にでも無償で手に入れることのできる人類の知の共有財産です。しかし、その美が無色透明なため、なかなか享受できないのが難点です。そこで、この難点を克服するために、あの手この手を用いてこの美を具象表現し、数学を五感で体感できるようにしてみました。みなさんはそれを見て、また直に触れて、思考の空間を存分に旅してください。ひょっとすると、数学に対するあなたの見方が180°変わるかも知れません。



東京理科大学  
数学体験館ホームページより

秋山仁

### 【参加した生徒の感想】

- ・私が見学して疑問に思ったことは、最短経路の実験で、「膜が三ツ矢サイダーのマークになるのはなぜだろう。」、ということでした。身近に使っていた洗剤がこんなに面白く、不思議なことにつながっているとは全く思ってもいませんでした。とても簡単にできていたので、家族に見せたいです。[1年生]
- ・体験館の見学に参加して、身近なものが数学と関係していて、とても興味を持ちました。数学は難しいように見えても、本当は単純なことであったり、面白いものであったりすることがわかりました。数学は発見し、理解し、解くことが大切なんだな、と知ることができました。これから習う数学も身近なものの仕組みや今まで思っていたものと違う見方をすることができるようになる、と考えるとこれから習う数学が楽しみだと思うようになりました。[2年生]

## ● 日赤救急法救急員養成講習会

7月17日から19日までの3日間、9時から17時まで新館多目的ホールにて講習会が開かれました。参加者は4年生18名、5年生16名、6年生5名のあわせて39名で、全員が救急法救急員の資格試験に合格しました。医師や看護師を目指す人だけでなく、人の役に立ちたいという理由で参加した人もいました。

### 【参加した生徒の感想】

- ・熱中症の対処法等も学べて良かった。周りでけがや病気になってしまった人がいたら積極的に手助けできると思う。
- ・このような講習会に参加することで、助けられる命が増えると思った。
- ・倒れている人がいたらどうすればいいのか、三角巾はどのように使うのかを学べて良かった。
- ・災害の時、ボランティアになって自分にできることが1つ増えて良かった。
- ・今回講習に参加して日ごとにスキルアップしていくのを実感できて良かった。
- ・自分の知識を、他人を助けることに活かして誇りに思う。
- ・覚えることがたくさんあり大変だったが、人助けのためになると思えば簡単だったと思う。
- ・将来看護師になりたいので講習会に参加した。心肺蘇生の場面に遭遇したら活躍したい。
- ・講習会に参加しなかったら、もし人が倒れていたとしてもただ見ていただけだったと思う。
- ・もし、今後習ったことを活かせる機会があったら積極的に行動していきたいと思った。





## ● War and Peace in the Pacific 75 Education Project

日本・米国・オーストラリアの中学高校生が第2次世界大戦を振り返り、これからの平和について考え、そして相互交流を図ることを目的に昨年度から実施されています。本校から4年生5名と5年生1名が参加しました。現在、プロジェクトの内容をビジュアルに見せるバナーを作成中で、バナーは11月6日から14日まで主催機関であるオーストラリア海洋博物館の展示場に展示されます。(次号に掲載します。)

### 【参加した生徒の感想】

・私たちは第2次世界大戦中に女性たちや女子高生たちがどのような生活を送っていたのか調べました。そこで、十文字の先輩の方にも話を伺いました。女子高生たちは食糧が不足している中、様々な工夫をして家族の生活を支えていたということが分かりました。また、彼女たちは工場の中で戦争に必要な道具を作らされていたことも知ることができました。当時の十文字の生徒たちは週1回授業を受けてそれ以外の日は工場で働いていたようです。また、戦争が激しくなると生徒たちが次々と疎開していったという話も伺いました。1人また1人とクラスメイトがいなくなることを想像するととても寂しくなります。空からの爆弾を恐れることなく食料もあり友だちに毎日会えることはとてもありがたいことだと、このプロジェクトを通して学びました。[5年生]

## ● 中学社会科校外学習

本年度は、JICA地球ひろばと印刷博物館の2本立てでした。社会科校外学習は毎年社会科の教員が心を込めて企画し、是非皆さんに見てほしいスポットを選んでいきます。今回定員を大きく上回る応募があり、また、当日熱心に見学・実習する生徒達の姿を見ると、企画した教員も感無量です。



### 【参加した生徒の感想】

・校外学習の中で一番興味深かったのは、JICAが派遣する青年海外協力隊として、実際にタイの学校に勤務した方の話です。どんなに貧しい地域の子供でも笑顔が素敵だったという言葉が印象的で、子供達が笑顔でいられる社会を作る手伝いができることは素晴らしいと思いました。私も一日一日を大切に、世界の人々を助けられるようなことをしたいです。[1年生]



## ● 第16回 東京・ソウル・北京 青少年赤十字交流プログラム

7月1日から9月29日まで8回にわたり、東京で青少年赤十字交流プログラムが実施されました。途中の7月23日から28日は新宿や浅草で宿泊して、中国や韓国の人たちとも交流を深めました。参加者は最後にインタビュー結果報告書と感想文を書いて全プログラムを終了しました。

### 【参加した生徒の感想】

・私はこのプログラムに参加したことで将来の方向性を決めることができ、何ものにも代えがたい大切な経験となりました。今回の私の目標は「三首都交流メンバー全員と話し、交流を深めること」でした。この交流を通して私たちメンバーはお互いに国境を越え、同じ人間として、同じ中学高校生として本当にかげがえのない仲間になることができました。期間中の会話はほとんどが英語でした。私は他のメンバーと比べて英語をあまり上手に話せませんでしたが、他国のメンバーが理解してくれようと思いました。このおかげで、私はもっと伝えたい、もっと深く話したいという思いを持つようになり、英語をこれからもより多く勉強していきたいと思いました。また、各国の活動内容紹介などを聞いて、やっていることは異なっても「誰かを助けたい」という思いや手段は世界共通のものだと改めて気づくことができました。今回の学びを糧にこれからも何事にも積極的に取り組んでいきたいです。[4年生]



## ● 東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学主催 文理協働型グローバル人材育成プログラム

これは西東京地区にある国立3大学がそれぞれの専門性と分野横断の協働の視点で立ち上げた実践型グローバル人材の養成プログラムです。2015年に国連が採択した17の行動目標のSDGsの1つである「全ての人に健康と福祉を」というテーマで高校生が学習し、ディスカッションをしました。これに参加するためには課題作文を書いて審査を通過する必要があります。今年の課題は「世界のすべての人が健康的な生活を送ること、福祉を受けられること」でした。本校の5年生が選ばれて8月の日程に参加しました。

### 【参加した生徒の感想】

- ・このプログラムに参加していちばん驚いたのは、全国各地から高校生が来ていたことです。私の班にも広島から来た人と新潟から来た人がいて、周りの人の志の高さには圧倒されました。初めに3つの大学で授業を受けました。プログラムは電気通信大学と東京外国語大学が行うものに参加しました。まず、電気通信大学では「健康と福祉」のテーマに沿ってIT技術と医療のつながりを学び、実際にプログラミングの体験もしました。次に、東京外国語大学では「医療・保険」についての講義を聞きましたが、とても難しい内容でした。全ての人々が健康になる方法を見つけようとしても貧困問題や国の制度にぶつかってしまうので、班でのディスカッションも頭を悩ませるものでした。しかし、とても濃い内容の話し合いができ、学校では習わないようなことをたくさん学べました。[5年生]

## ● 海と日本PROJECT

7月29日(日)に、東京港(月島ふ頭)にて、「練習船を使った先端研究に触れてみよう!」と、北海道大学水産学部附属練習船「おしよる丸V世」に乗船し、北極圏での調査研究のお話を伺い、また船内の研究設備を見学することができました。(中学生10名が参加)



### 【参加した生徒の感想】

- ・写真ではそこまで大きくないと思っていましたが、実際近づいてみると結構大きく、これだけの船にどれだけの技術が積み上げられているのだろうとワクワクしました。
- ・ふだん絶対に見ることのできない乗員の寝室や浴場、操縦室を見ることができてとても興奮しました。研究に使われる機械やその部屋を案内していただき、充実した一日となりました。
- ・私が印象に残っているのは、マルチプルコアラーという、海水と海底の泥を、海と同じ状態で採取できる装置でした。これにより、より正確に海の状態を知ることができるのだと思いました。海無し県に住んでいる私は、今回参加して、海に少し親近感を抱きました。





## ● 第2回全国高校教育模擬国連大会

(ユネスコアジア文化センター主催)



8月6日・7日の2日間にわたって、きゅりあん（品川区立総合区民会館）で全国から71高校、約500名の生徒が集まって模擬国連が開かれました。議題は「国際安全保障の文脈における情報及び電気通信分野の進歩（サイバーセキュリティ）」。

十文字高校からは4年生2名が“ペルー大使”として大会に臨みました。今回は残念ながら受賞はできませんでしたが、いろいろ調べる中で視野を広げることができたようです。

### 【参加した生徒の感想】

・今回、全国高校模擬国連大会に2人で参加し、先生方のサポートのもと貴重な経験をさせていただきました。この大会は2日間にわたって行われ、この2日間のために多くの時間をかけて準備をしてきた高校生たちが集まり意見をぶつけ合いました。私たちは、初めての参加ということもあり、意見を伝えることをためらってしまうこともしょしばかりありました。中には自ら声をあげて何十人もの高校生に指示したり、意見を求めたりする人がいて、すごいなあと憧れの気持ちを抱きました。

全国から集まった高校生がいる中で、多くの人が積極性や協調性を持っており、強い刺激を受けました。それらを自分たちの目で見、私達も頑張ろうと思いました。

今回の議題はサイバーセキュリティについてで、私たちは“ペルー大使”になって調べてきました。ペルーはサイバーセキュリティについての情報がよくわからず、大使館に問い合わせたり、インターネットで調べたりして準備をしました。そのおかげで、日本との関係や、ペルーの財政などを知ることができました。今回の大会に参加した各国の“大使”の人たちは、いろいろ調べて準備をしてきただけでなく、今までの積み重ねである基礎知識が豊富で、私たちは自分たちの甘さを痛感しました。改めて日々の学習をしっかりと自分の身になるようにしていくことが大切なのだという事を感じる事が出来ました。

普段の生活では触れることの少ないジャンルには、私たちの知らないことがまだまだたくさんあるのだと強く感じました。今回の議題は私達にはあまり関心がないジャンルだったので、触れる機会がないものを一から調べていくというのは簡単な事ではありませんでしたが、とてもやりがいを感じました。

今回学んだことを無駄にすることのないようにこれから生かしていきたいと思います。また今回のように参加する機会があれば、今回の反省点を活かし、意見をしっかりと伝えられるようにしたいです。どうしたら自分の意見を的確に相手に伝えることができるのかなど私達にはまだまだ至らない点があるのだという事など新たに改善していくところを見つける事が出来ました。今回学んだり感じたりしたことをそのままにせずに行動に移していきたいです。[4年生]

## ● 金沢大学母校訪問「2回の大学受験を通じて気付いたこと」

夏休み後半の8月23日(木)に金沢大学の“母校訪問キャンペーン”の一環として、2015年3月に本校を卒業した大場美穂さんが、「2回の大学受験を通じて気付いたこと」というタイトルで、ご自分の経験を話してくださいました。大場さんは、十文字高校を卒業した後、日本女子大学理学部数物科学科で2年間、物理と情報について学びました。「機械を相手に学ぶよりも人を対象にした勉強をしたい」と考えて、大学2年生で日本女子大を退学しました。その後、1年間予備校に通いこの春に金沢大学保健学類看護学専攻に入学しました。



「地方の国立大学は下宿している人が多いので、皆直ぐに仲良くなれます。」

「国立大学は学部が多いので、いろいろなことを勉強している人と仲良くなれます。」など大学の魅力を語ってくれました。また、看護学の授業で、「医者は病気になった人を直すことが仕事、看護師は人を病気にさせないようにすることが仕事」と言われ、看護師の使命を感じたと話していました。

予備校時代のまとめノート

看護師さんになりたい人は是非このことばを頭に入れておいていただきたいと思います。



## ● 東京都教育委員会主催 中学科学コンテスト

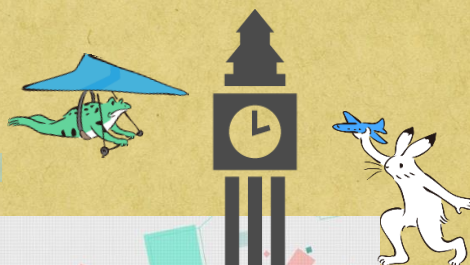
8月26日(日)に都立富士高等学校附属中学校にて、中学1・2年生対象の科学コンテストが開かれました。3人一組で、協力しながら筆記競技と実技競技に取り組むという内容でした。本年度の実技競技は「正多角形を組み合わせて多面体を作り、規定の斜面から転がして進んだ距離を競う」という競技でした。本校からは中学2年生が3名(3名1組)参加しました。成績は、188グループ中、11位~40位のBランクに入ることができ、善戦しました。



### 【参加した生徒の感想】

- ・筆記は難しく、3人で協力しないと解けないようなものもありました。協力することが肝心のこのコンテストで、Bランクに入ることができて良かったです。チームワークがとれていないと何もできなかったと思います。難しい問題でしたが、とても、とても、とても楽しかったです。

## ● 文部科学省主催 トビタテ！留学JAPAN



「トビタテ!留学JAPAN」とは、政府だけではなく、官民協働のもと社会総掛かりで取り組む「留学促進キャンペーン」です。文部科学省は、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す機運を醸成することを目的として、2013年10月より留学促進キャンペーン「トビタテ!留学JAPAN」を開始しました。

《ホームページより》

本校の5年生が、2回にわたる審査をパスして、この夏休みにオクスフォード大学に2週間留学しました。

### 【参加した生徒の感想】

- ・「トビタテ!留学JAPAN」への応募は一次の書類審査、二次の面接ともとても大変でしたが、これに挑戦することで今の自分と真剣に向き合うことができました。現地では日本を紹介することがトビタテ!のミッションの1つであり、また自分の留学のテーマでもあったので、自分がずっと習い続けてきた合気道を紹介しました。私は昨年、学校のプログラムで3ヶ月間オーストラリアに留学し、リスニング、ライティング、リーディングの力を伸ばすことができましたのですが、スピーキングが他よりも劣っていました。その原因は英語の学力ではなく、自分の引込み思案などところにあると思います。留学中はなるべく積極的に発言し行動するようにしました。トビタテ生は皆とても積極的なので良い意味で影響を受けたように思います。また、イギリスの歴史的な建物をたくさん見学し、文化についても一方的に教わるのではなく、日本の文化との違いを話し合うなどして充実した2週間を過ごせました。[5年生]



## ● 夏休み医療体験

今年の夏も多くの生徒が、看護師（34名）、医師（28名）、薬剤師（7名）、歯科衛生士（1名）の仕事を病院などで体験してきました。

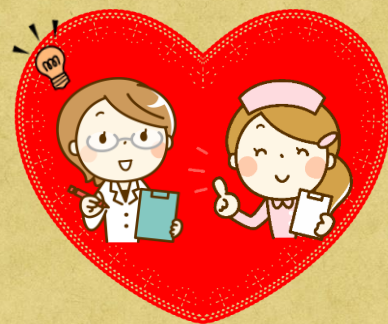
### 【参加した生徒の感想】

#### 《看護師体験》

- ・訪問看護を体験しました。足・腰が不自由で1人で外に出られない方の家では、看護師さんが細かいところまで気遣っていることがよく分かりました。また、患者さんがネガティブなことばを出したときには直ぐに励ましていました。
- ・看護師の仕事はお医者さんのサポートだけではなく、患者さんの心のケアなどのサポートも仕事の一部だということが分かった。
- ・看護師は常に明るく振る舞っていることが必要だと感じた。
- ・看護師という職業はコミュニケーションの力がとても必要だと感じた。

#### 《医師体験》

- ・医者になってよりよい病院を自分の手で作ってみたいと思った。
- ・患者さんの気持ちを十分に理解し、知識と経験をたくさん持っている医者になりたいと思った。
- ・初めて自分の心音や脈拍の測定をした。
- ・地域や患者さんとの交流を大事にしている病院で働いてみたいと思った。
- ・患者の要望をできる限りかなえてあげようとする医師や看護師は素晴らしいと思った。
- ・病院内の全ての設備を見ることができて良かった。
- ・患者を差別しない医師になりたい。



## ● 東京都社会福祉協議会主催 保育の仕事 職場体験

4年生の生徒4名が夏休み中の2日間に都内の保育園で実習をしました。



### 【参加した生徒の感想】

- ・子どもたちのお昼寝の時間に先生たちがおもちゃの掃除をしたり、子どもたちの様子を細かく観察していたりするのを知ることができた。  
小さければ小さいほど1人1人注意深く見てあげなければいけないと感じた。
- ・子どもたちが見ていないところでも保育士はたくさん仕事をしているのが分かった。
- ・遊ぶ時は遊ぶ、怒る時は怒るというメリハリのある指導が大切で、甘やかすのは良くないと感じた。
- ・子どもを注意深く見て、良いことと悪いことをきちんと教えなくてはいけないということが分かった。

